

いるま

第46号

令和7年9月1日発行

題字・発行者

会長 吉武 覚



会長に就任して

会長 吉武 覚

この度、前会長の比留間英雄先生の後を引き継ぎまして会長を仰せつかりました。もとよりその任でないことは十分自覚しておりますが、会員の方々のご支援とご協力をいただき責任を果たしていききたいと考えています。

さて、本会の活動を振り返りますと、親睦を図ることに關しては、各班の活動が充実しており、その目的が達成されていると考えています。

教育の振興に寄与する事項に關しては、もうひと工夫が必要であると考えています。

教員採用の受験者が定員数割れとか、教頭試験の倍率が二倍を割るなどの事態が教育現場で起こっています。

会員の皆様には教育現場の実情を知っていただき、共通理解の基に解決の道筋をつくる必要があると考えています。

まず教育現場の実態を知るために現職の校長先生方との交流の機会を班の活動に位置付ける必要があります。

すでにいくつかの班では、交流会を実施しているところもあります。学校が抱えている情報を知る機会としての現職校長先生方との交流会を班活動に位置付けて下さい。そこで把握した学校の課題を班で会長を中心とした役員会で内容を分類して下さい。班の会員の派遣で取り組めるもの、地元の教育委員会にお願いしなければならぬもの、県の退職校長会を通じて県の教育委員会にお願いが必要なもの等、行動範囲を広めていく必要があると考えます。学校の応援団として会員の方々が直接学校現場とかかわりが持てること、教育委員会とかかわる機会が増えることが期待されます。

私たちの会は、経験豊かな人材の集まりです。様々な課題を抱えている教育現場に力をお貸しください。そのためには、情報収集力や伝達力を持つている本会の組織力を大いに活用して下さい。



退任の挨拶に代えて

顧問 比留間 英雄

私は五月の総会をもって、会長を退任いたしました。

令和三年に井上清会長からバトンを引き継ぎ、四年間その任に当たりました。会長として至らない点もありましたが、多くの皆様に支えられて何とか務めを果たすことができました。皆様のご支援に深く感謝いたします。

顧みると、私は十四年に亘り本会の役職に携わりました。

平成二十三年の広報委員を皮切りに、令和元年度から副会長に、三年度からは会長と県の副会長に就きました。

会議や諸連絡で時間を割くことも多くありましたが、多くの方に出会い、たくさんの方の事を学ぶことができました。役職に就かなければ得られない貴重な経験でした。

特に、会報「いるま」の編集会議で「生きがい」や「会員の声」を熟読して、元気に活躍されている皆様の姿に接することができました。

私も八十二歳となり足腰の衰えを感じますが、皆様の頑張る姿に励まされて、これからの生活をしっかりと歩もうと思います。

国内外はますます混迷を深め、学校教育も様々な対応を迫られています。先行き不透明な現状に、私達退職校長も無関心ではられません。皆様が蓄積された知見を是非、活かしてほしいと思います。

本会も幾つかの課題を抱えています。定年制延長もあり会員の減少傾向が見られます。

それ故、活動内容をさらに工夫して、魅力ある会にすることが求められます。次期役員の皆様に期待いたします。

会長を退き肩の荷が軽くなりましたが、今後も一会員として本会の活動を見守りながら、できる限り諸行事に参加したいと思っています。

本会の更なる発展を願って、退任の挨拶といたします。有難うございました。

れまでも増して教育が大切な役

割を持つものと考えております。未来を担うかけがえのない存在である子ども達に対して、先生方はまさしく人生を懸け、その教育に長年ご尽力くださいました。誠にありがとうございました。

こうした中で、子ども達は一人ひとり、自らの『夢』を描き、実現を図つてまいりました。今後も、子ども達が、生きる力を育み、自立し、自らの夢を追い求め、実現できるよう、さらなる教育の充実に努めていくべきものと考えております。

会員の皆様におかれましては、それぞれの地域において、様々な形で活躍のことと存じますが、今後につきましても、子ども達の健全育成のために、元校長先生ならではの豊かなご経験に基づいた、ご助言とご協力をいただければ幸いです。

結びに、皆様方のご健康と入間地区退職校長会の益々のご発展を祈念いたしまして、私の挨拶といたします」とお話をいただきました。

さらに、埼玉県退職校長会新井俊一会長から次の来賓挨拶をいただきました。「私は昭和十五年生まれです。本日、入間地区退職校長会総会にご参加いただいた皆様のなかでは、一番若い。これからの埼玉県退職校長を盛り上げるためには、退職校長会の活動を見せる化から魅せる化を図る必要があります。皆様是非ともお願いしま

す」とお話をいただきました。続いて入間地区中学校長会 遠藤敏様よりご祝辞をいただきました。

懇親会・旧交を深める

総会終了後、会場を移して懇親会が開催されました。懇親会には埼玉県退職校長会長の新井俊一様の臨席を賜り、次のように進められました。

開会の挨拶・会長の挨拶・来賓紹介とその挨拶・歓迎の言葉・乾杯・歓談・締め・閉会の挨拶という流れで進められました。

最初に、入間地区退職校長会吉武覚会長から挨拶をいただきました。「全ての教育改革は、子ども達・学校現場の改善のためである。私たち入間地区退職校長会も、様々な面で支援を惜しまず尽力していきたい」と話されました。

次に、所沢市退職校長会の鈴木良明会長より歓迎の挨拶をいただきました。「この懇親会を通じて、情報交換を行い、親睦を深めて入間地区退職校長会のさらなる発展に寄与できれば幸いです」と話されました。

最後に、歓談では、埼玉県退職校長会長の鈴木俊一様の指揮のもと埼玉県歌を合唱しました。さらに、所沢市退職校長による黒田節の歌と踊りが披露され、大いに盛り上がりしました。(文責 丸山昇)

班だより

研修と親睦を深める所沢班

所沢班 丸山 昇

所沢市退職校長会の会員数は、百二十七名です。鈴木良明会長を中心に様々な活動を行い研修と親睦を深めています。所沢市退職校長は所沢市退職公務員連盟とともに様々な活動を実施しています。

令和七年六月三・四日には、箱根・湯河原・小田原方面へ一泊旅行を実施しました。雨の箱根関所や芦ノ湖遊覧船、晴れの小田原城。幹事・参加者のご協力で大いに研修と親睦を深めることができました。七年度前半には、七月下旬「歌舞伎鑑賞教室」、夏休み期間「トコ



小田原城にて



そば打ち体験教室

ろんのびのび塾への協力」、九月下旬「私も元気です展」などが予定されています。

七年度後半には、十月「日帰りバス旅行」、十一月「教育推進研究協議会」、十二月「受章・長寿祝賀会」、令和八年一月「会員研修会」、二月「落語鑑賞教室」などが予定されています。

特色ある活動のひとつに、所沢市教育委員会主催・小学生対象・算数基礎学力向上プロジェクト「トコロのびのび塾」へのボランティア参加があります。地域の教育力として、積極的に協力し、退職校長会の存在感を高めています。

さらに、会員研修会も充実しています。昨年度は、会員の嶋田氏を講師に迎え、「そば打ち体験教室」を開催しました。

今後の課題として、会員減少や行事参加者減少に伴う活動内容の見直しを進めています。

十・二十年先を見据え、持続可能な所沢市退職校長会とは何かについて、生き残りをかけて議論しています。

憧れを追い求めて

川越 小俣 仁 司



ラパヌイ (イースター島) にて

船のバルコニーから空一面に広がる赤と緑の光のカーテン、アイランド沖のオーロラ。アンデス山脈の標高二四〇〇mに佇む「空中都市」「インカの失われた都市」などと称せられる、マチュピチュ。幼い頃から放浪癖があり（よく言えば旅好き）、いわゆるバックパッカー族として、これまでに日本全国、そして欧米十五カ国へ一人旅をしてきた。そんな私の退職後の夢（憧れ）の一つは、放浪癖の集大成として地球を一周する旅をすることであった。昨年、その夢を実現することができた。

会計年度職員の仕事を全てお断りして、百八日間地球一周船の旅に出た。西回り航路で赤道を縦断すること四回。回った世界二十カ

国は、私の期待を裏切ることなく、実に多くの感動を与えてくれた。

退職後のもう一つの夢は、富士山登頂だった。若い頃、新田次郎に憧れて、数々の山を登ってきた。しかし、新田次郎が勤務した富士山測候所（山頂）まで登る機会が不思議なことに無かった。

そこで一昨年、意を決して富士登山に挑戦し、晴れて登頂することができた。事前に幾つかの山に登って、体力を鍛えてから臨んだが、七合目付近の雷雨、九合目からの急斜面に心が折れかかった。しかし、雲海からのご来光の美しさは今も目に焼き付いている。

これら二つの夢（憧れ）は、既に実現したものの、私の放浪癖は留まることを知らず、今も幾つかの旅を企画中である。

また、若い頃から自然相手の仕事（特に畑仕事）にも憧れていた。退職後には自分の菜園を持つのも夢だった。折しも今春、偶然にも我が家の隣が空き地となり、十坪程の畑を持つ機会に恵まれた。土作りから始めて、十二種類の果物や野菜を育てている。この菜園作りも私の生きがいとなっている。私の生きがいとは、憧れを追い求め、夢を実現すること。

生きがい

世の中見つめる軽い文

日高 梅津 稔

教員を退職してから、いろいろなことをやってきた。自治会の活動、高校の同窓会の役員、小学生の下校指導、市の退職校長会の事務局長、弘済会の役員、公民館での卓球練習などである。しかし、それぞれが「生きがい」とは、なかなか言えない。そこで、よく書いていた「世の中見つめる軽い文」を取り上げてみたい。

まず「世の中」を見る基本は、学生時代の勉強にあったと思う。「立ち返るべき原点」とも言える。大学は経済学部で、ゼミで「資本論」を学んでいた。卒論も「資本論」の一部についてである。今ヨーロッパやアメリカでも「資本論」に新たな注目が集まっているという。「資本論」のいちばんの特徴は、資本主義を生み出す成、発展、没落とらえ、社会主義、共産主義社会に移っていく過程を語っていることだろう。ただマルクスは資本主義を全く否定しているわけではない。生産力と剰余労働を急速に拡大した資本主義を高く評価している。もちろん、



その弊害を詳しく述べている。そこで今の世の中はどうか。現在、資本主義の暴走は顕著になってきた。以下、前に書いた「世の中見つめる軽い文」を紹介したい。

「このごろ世の中、狂っている。トランプ氏は一方的な関税政策でデイトルを繰り返している。イスラエル、ロシアも他国を攻撃。なんとアメリカもイランを攻撃。何をかいわんや！ 日本でも、何年も続いた大株主や大企業優先の政治。非正規労働者は四割に達し、特に若者は苦しい状況。これが「闇バイト」につながっていないか。令和の米騒動もそう。農政の貧困が原因だ。生産者と消費者を考える政治が必要。それこそ、ジュークギ、ジュークギ」でいけよ（以下略）



大内宿街並にて

猛暑の中、三十四名の参加者で、会津の文化に触れ、藩校では、若き志士たちから真剣に学んできました。

令和七年度 研修・親睦旅行 大内宿・会津藩校日新館 学びの旅

【旅程】 7月3日(木)

本川越・川越 → 関越道・圏央道・東北道 → 会津若松IC → 塔のへつり(昼食) → 大内宿街並み展示館(見学・散策) → 末廣酒造嘉永蔵(見学) → 芦ノ牧温泉グランドホテル(泊)

参加者
34名

7月4日(金)

漆器工房 鈴木(見学) → 会津藩校日新館(見学) → 鶴ヶ城(昼食・見学) → 会津若松IC → 那須高原SA → 羽生PA → 川越IC → 川越・本川越

吉武会長さんをはじめ三十四名の参加者で、研修・親睦旅行はスタートしました。最初の見学先は福島県下郷町の「塔のへつり」(水流にえぐられた岩の塔、阿賀川の吊り橋を渡り、自然の作り出した絶景に感動しました。近くの「五晃苑」で、石臼挽自家製粉手打ちそばをいただき、下野街道宿場「大内宿」へ。見晴台からの道の両側に並ぶ茅葺屋根の宿場の眺めはとても綺麗でした。会津といえど日本酒、末廣酒造嘉永蔵で、純米吟醸酒を試飲させていただき、帰りには、家にお酒を送る姿が多く見られました。ほろ酔い気分の内に、「芦ノ牧温泉グランドホテル」に到着。早速、大浴場へ。温泉をゆっくり堪能し、比留間前会長さんの乾杯のご発声により、懇親会がスタート。会津の美味しいお酒を飲み、美味しい料理を食べながら、久しぶりに会えた同じ苦労をしてきた仕事仲間と、楽しいひと時を過ごしました。



塔のへつり

1日目

会津に感動、また、来ます

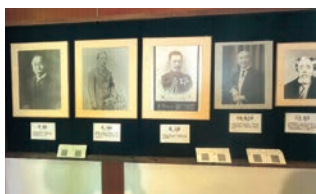
川越 久保田 修平

2日目

会津藩校日新館を見学して

飯能 細田 俊雄

勝てば官軍歴史は勝者により作られる。松平容保が京都守護職に就き孝明天皇から宸翰を賜った時から会津の悲劇は始まった。藩祖保科正之が定めた家訓に忠実に会津武士道を守り続けた事が悲劇の根底にあった。薩長の謀略により討幕の密勅が出され、いつの間にか朝敵にされてしまった事は歴史で学んだとおりである。降伏してからの新政府の会津に対する扱いは誠に残酷であった。下北の辺地に移封され、藩士は寒さと飢えの生活を強いられた。いろいろな藩士のその後の功績や写真が展示されていたが中でも印象に残った藩士がいた。それは柴五郎、のちの陸軍大将である。明治三十三年義和団当時の北京駐在武官で北京籠城の際、沈着な行動により世界の賞賛を受けた。まさに会津の武士道を世界に知らしめたのである。興味のある方は石光真人編著「ある明治人の記録」会津人柴五郎の遺書を紹介して研修記録としたい。



中央が柴五郎です

会員の声

退職校長として

川越 長井正邦

令和七年三月をもつて役職定年を迎え、校長職を離れました。

本年四月からは、拠点校指導教員として三校六名の初任者の育成のお手伝いをしております。本務校は川越市立南古谷中学校で、兼務校は、川越市立砂中学校と川越市立霞ヶ関中学校の三校に勤務しております。不慣れではありますが、校長在職中に、諸先輩方からいただいたご指導をもとに職務に邁進しております。

教職三十七年目を迎え「子供観」は、どのように変わったでしょうか。結論から言って、以前より子供が可愛く、大切に思えるようになったのです。子供が安心して登校し、楽しく充実した学校生活を送らせたいと切に思うようになったのです。いづれにせよ、子供を大切にしようとする気持ち、以前より強くなったことは確かです。

今後とも、健康に留意して、努力を重ねていく所存です。引き続き、変わらぬご指導をいただきませう。何卒よろしく願います。

家庭菜園に学ぶ

飯能 五江渕 幸子

「自然は正直、時期を逃すと種を蒔いても収穫できない」

そんな当たり前のことを、今さらながら経験しました。

家族皆の好物である「のらぼう菜」、九月の蒔き時を逃したものの、もしかしてという思いで種をこぼしてみました。案の定、かき菜にはならず、畑には黄色の美しい花が一行に咲くのみ、その風情を楽しみ、種をとることにしました。

これを機に、のらぼう菜が江戸時代に幕府から配布された「闇婆菜」という野菜であること、飢饉のとき人々を助けたほど協芽が何度も出る旺盛な生命力を持つ品種で、栄養価も高いこと等々、新たな知識も得ました。

気候変動の影響で、作物がうまく作れないことも実感する中、家族の好きな野菜を食卓に乗せる楽しさを描きつつ、『今年こそは』と曆に大きめの印をつけました。

「隅を照らす」の毎日を目指す

毛呂山 島野 一

退職して十年、概ね健康的な毎日を過ごしております。これを支えている柱は、「地域の仕事」、そして「私有地の仕事」です。

地域の仕事では、特に、神社の

仕事があります。幼少から付き合いのある先輩方や地域愛に充ちた方々からの要望もありお引き受けしました。課題もありますが、氏子総代の仕事を通じて様々な活動ができ、地域の皆様のお支えにより、楽しく取り組んでいます。

私有地の仕事は、海拔二八〇米からの絶景を愛でながらの農林作業が中心です。この地からは、東京方面が一望に見渡せ、羽田や成田の航空機の発着状況も遠望することができます。野菜等の販売では、良い品物を安くのお客様優先をモットーに妻と行っています。

今後とも、健康に留意し、一隅を照らせれば十分の毎日が送れるよう努めて参ります。

散歩のすすめ

入間東部 今井 寛

退職して八年、健康のために散歩を日課としています。私の散歩道は、自宅から入間川の土手までの田んぼに囲まれた田舎道です。散歩をしていると様々な動物との出会いがあります。ヒバリ、ツバメ、シラサギ、アオサギなどいつものように出会う鳥たち。今日もキジの親子と出会いました。また、時にはキツネ、タヌキ、イタチ、オコジョなどの珍しい動物との出会いもあります。精一杯生きている姿を見ると、何か良いことがあります。四つ葉

のクロバーを見つけた日には、幸せな気持ちにもなれます。また、時には、スマホを片手に観光地ではない見知らぬ街に出向くこともあります。景色や人との出会いにワクワクドキドキが止まりません。散歩は私の体力貯金であり、健康の源であります。今後もしっかり歩いていきたいと思っています。

地元之恩返し

所沢 内野正行

退職して十二年、前半の六年は学校経営の悩み相談、図書館で工作教室を行っていました。そして後半は、地元町内会で、新入学児童の歓迎会、清掃美化活動、敬老会、秋祭りや地区の様々な委員会に参加しています。また、地元小学校の登下校の見守り、「ほうかごみなみ」の運営委員長、学校運営協議会の会長や小中の愛校会の委員などをしていきます。毎年夏に行われるトコロんのびのび塾は楽しみにしています。さらに、退職校長会や退職公務員連盟の仕事もさせていただいています。

また、畑を借りて、二十種類以上の野菜を育て、できた野菜を家族はもちろん町内会の人や近所の皆様におすそ分けし、喜ばれています。退職前から始めているゴルフを続けているほか、最近体力づくりにジムに通い始め、健康に気を付けるようにしています。

今を大切に生きる

所沢 長谷川 陽子

多くの方に支えられ三十九年間（中学校理科の教諭二十四年間、管理職等十五年間）を終えることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。

退職が一年延長になったおかげで所沢市立南小学校の百五十周年式典を子ども達、保護者、多くの地域の方と共に祝うことができました。未来を創り上げるためには、「今を大切に生きる」ことだと子ども達と考えました。最後の年の貴重な時間となりました。

令和七年三月三十一日二十四時、心から「ホッ」としました。

今年度は、所沢市教育委員会学校教育課 特別支援教育アドバイザーとして働いています。

今までと違う立場で、全ての子ども達が安心して過ごせる心の居場所づくりにつながるよう力を尽くしたいと思います。これからもよろしく願います。

私の人生の扉

川越 増田 陽水

竹内まりやの人生の扉から参考。私の師、上福岡小暮昭美先生も九十七歳で、長嶋茂雄も八十九歳で逝去された。

私の約五十年の扉を振り返つ

た。昭和四十五年の大阪万博に友三人で歩く。東海道五十三次の如く京都三条までだ。TBSのラジオに出演。公園、海岸、寺、教会、学校、民家等に泊。月の石を見て二十日間で高速夜行バスで帰路。五十年故荒木拓一氏と上福岡FCサンダースを設立。五十三年海外派遣教員でルーマニアに三年間赴任。価値観の相違を体験。上福岡で教員等二十年。所沢で教頭八年。川島町、川越で校長九年。諸先輩のお陰で退職。淑徳大学・JICA A八年勤務。平成から令和にかけて四国八十八ヶ所巡礼。西安の空海修行寺〇番へ拝礼。シルクロード巡り。

現在はボランティアで外国人に日本語指導。二病息災健康教室に通い認知症対策。自然や人に感謝し旅路の果てに輝く何かを信じて。海外二十八国、四十回見聞は続くかな。

学び合える二日間に感謝

入間 古谷 進

退職校長会加入から早七年。再任用校長も二年前に無事満了。あつと言う間に過ぎた感でした。年月の経過を早く感じるのは年の所為なのでしょう。まさか忙しさに忙殺？ いずれにせよ緊張と感動の充実した十三年間でした。六十五歳を節目に心身のメンテナンスも兼ね仕事から完全引退も考

えましたが、幸せなことに非常勤の初任者指導のお話をいただきました。

現在、週二日勤務で一名を担当しています。授業や学級経営等について話していると、そういえば自分もそんなこともあったなあと共感したり、過去の失敗や若かりし頃を密かに懐かしんだり、脳や心が活性化され、自身の教師力もアップデートされるようにも感じます。未来を担う若者との学び合いを通し、自身の教師力や人間性も高まる気にさせていただけの幸せに感謝しつつの二日間です。

老いるオイルショックに負けない

坂戸 佐藤 道夫

救急車の中で考えた。

「今、M中学校の前あたりを走っているのだろうか。」

かつて大学病院近くにあるM中学校に勤務していたことがある。校庭の前を頻繁に通る救急車を、自分もいつか乗るのだろうかと思ひながら見ていた。

幸い短期の入院で済んだが、体のあちこちに不具合が生じ、急に老いを実感させられた。さて、どうしたものかと気が滅入っていたとき、某新聞コラム欄の正岡子規の言葉に目が留まった。「悟りといふ事は如何なる場合にも平気で死ぬる事かと思つて居たのは間違ひで（中略）如何なる場合にも平気

で生きて居る事であつた。」急に元気が出た。そう長くはないにしても、この先まだいろいろなことがあるだろう。最後の最後まで「平気で生きて」いこう、と心に決めた。

幼児教育に関わって

狭山 江田 宏樹

私は、所沢小学校を定年退職し、その次の日から、認定こども園の園長になりました。

認定こども園の仕事ですが、園長先生この子は二号さんの子です。よと言われ、二号さんの子？と変な勘繰りをしてしまったことを思い出します。二号認定（保育園枠の子）保育に関しては、先生方が中心でやっていますが、私がやったことは、行事の計画や安全管理、保護者対応などです。なぜか私は幼稚園教諭の免許を持っています。たので、運動スポーツについて、跳び箱・鉄棒・マット・平均台を教え、保護者には、できるようになるコツを教えました。

運動会では徒競走のスタートを教え、組体操の指導もしました。

〇歳から年長までの成長はすごいなとあらためて思いました。

現在はそのことを生かし、幼稚園の園長をやっています。



「ランプシェード」(陶芸)

狭山 青柳 進



「木と遊ぶⅡ」(木工)

飯能 浅見敏彦



作品の窓

「パリオリンピック エッフェル塔」
(ペーパークラフト)

所沢 佐々木正憲



「福よ、来い!」
(グラスアート&トールペイント)

川越 長谷川郁代



「折^{おり}を楽しむ」(折り紙)

川越 田中輝恵・金子洋子



「バードカービング」(彫刻)

入間 清水新吉



編集後記

比留間英雄前会長から吉武覚会長にバトンタッチされた令和七年度の活動も計画通り進められ、半年が過ぎようとしています。

その詳細を会報「いるま」四十六号にて、また、埼玉県退職校長会ホームページにて紹介しています。入間管内十一地区の身近な最新情報も活動の指針になっています。

今号から編集委員が七名となりました。会員の皆様により分かり易くより魅力的な紙面作りに努めたいと考えております。今後共、ご協力をお願いします。(熊本)



田島(北)
熊本(編集長)
丸山(南・HP)
吉武(会長)
北野(西)
小見山(副会長)
太田(東)

入間地区退職校長会会報

第四十六号

発行 令和七年九月一日

発行者 会長 吉武 覚

川越市寿町一丁四三二五

印刷所 六三四堂印刷株式会社